小62　鹿児島市立和田小学校
令和6年1月30日

令和５年度　学校評価　自己評価書（後期）

1　学校の重点目標

〇　学級経営を基盤とした確かな学力の向上
〇　思いやりを中核とした心の教育の推進
〇　いじめ・不登校への対応の強化
〇　体力・気力つくりと保健・安全教育の推進

2　課題と改善策　　　1.0（そう思わない）　～　2.5(中間値)　～　4.0（そう思う）

		評価項目	職員	評価結果と改善方策
考える子	1	「共通実践事項」（分かった・できたを実感できる授業）を重視した授業改善	3.1	・　前期の反省を生かして、重点事項と位置付け、「共通実践事項の振り返りカード」を活用し、全職員の共通理解の下で授業実践してきた結果が表れてきた。
	2	基礎・基本定着のための漢字力・計算力テストや過去問良問等の実施と解説	3.1	・　「学力向上は、子供の夢の実現のため」を合言葉に、授業始めや終末に1問以上の問題を提示し、解説を加える指導を継続して、学力の定着を図っていく。
	3	疑問形の学習問題（めあて）をつくる場の設定	3.0	・　本時の目標を念頭に置き、疑問形の学習問題を子供と一緒につくり、めあてとまとめの整合性を意識した授業づくりを全職員で共通理解し、共通実践していく。
	4	分かる授業の推進を図るためのＩＣＴ機器の積極的な活用	3.3	・　前期よりも職員評価も児童評価もタブレットを活用した授業評価が高い数値を示している。今後も積極的にタブレット活用をするとともに、分かる授業づくりを目指していく。
	5	家庭と連携を図った家庭学習の習慣化の推進	2.8	・　家庭学習の重要性を学級ＰＴＡや学級週報などで何度も伝えてきたが、まだ十分とは言えない。学校と家庭が同じベクトルで子供の家庭学習を引き続き支援していく。
助け合う子	6	明るく楽しい学校・学級づくりを目指した元気なあいさつの指導	3.3	・　継続的なあいさつ指導の成果が実ってきた。子供自身も高い評価を示していた。
	7	教児一体となった清掃活動	3.3	・　率先垂範の姿が浸透してきたが、靴箱、階段、水道下などの細かな掃除の仕方の徹底が必要である。
	8	「いじめ根絶や不登校の解消」「思いやる心を育む学級づくり」を目指した学級経営	3.4	・　前期よりは評価が上がってきたが、言葉遣いが、本校の課題である。情報を交流させながら、学校と家庭と一体となった取組を強化していく。
	9	思いやりや次の行動への心構えを育てるための「はきものそろえ」の指導	3.3	・　前期よりも評価が上がってきた。「はきものそろえ」は心に落ち着きをもたらすので、今後も継続指導を心がける。
	10	本好きな子供の育成を目指した年間目標読書冊数達成への啓発と親子読書の奨励	3.2	・　図書室から月末に報告される読書冊数の達成状況をもとに読書の積極的活用を呼びかけたり、子供たちの自主的に貸出を称賛したりしてきた成果が表れてきた。
	11	日常生活に生きて働く道徳性の育成を図るための「考え、議論する道徳教育」の実践	2.8	・　前期よりは評価が上がってきたが、まだ十分とは言えない。相手の意見を聞く、考えを述べる、議論していくという過程をこれまで以上に丁寧に取り扱っていく。
がんばる子	12	「よい子のきまり」を活用した指導	3.3	・　一部検討項目もあるが、子供・保護者に内容が共有されるように丁寧な説明や学級指導を繰り返していく。
	13	「望ましい食習慣の定着」と「感謝の気持ちの育成」の推進	3.2	・　献立委員会での情報共有や給食委員会の昼の献立紹介放送も行っているので、食育指導が充実している。
	14	「一校一運動（長縄エイトマン）」の日常化や体力つくりの推進	2.7	・　秋になり長縄エイトマンを全校の取組として本格化し、他の学級と競うことがいい意味で刺激となっている。
	15	廊下歩行や安全な登下校など安全を意識した生活習慣の確立	3.1	・　安全な登下校については、保護者からの苦情が寄せられている。校内での安全な廊下歩行や階段の昇降指導を全職員で共通理解し、共通指導していく。
	16	健康診断結果に基づいたう歯や疾病治療の推進や予防のための指導	3.0	・　治療率一覧表を基に、年間3回ほど疾病治療のプリントを配布して、積極的に呼び掛けたきたが、家庭によって予防に関する意識に差が見られる。引き続き喚起していく。
	17	感染症対策（手洗い、換気等）や熱中症対策の継続的な指導	3.3	・　感染症の拡大予防に配慮しながら、手洗い、換気等などを徹底してきた。保護者の理解も一層得ながら継続していく。
保護者・地域との連携	18	学級ＰＴＡ、学級週報等を通した教育方針や教育活動の丁寧な発信	3.2	・　前期に引き続き、文書、ホームページ、メール等も活用して学校の詳細な情報を分かりやすく伝えていく。
	19	保護者からの連絡・相談への誠実な対応	3.5	・　保護者や地域から寄せられる声については、今後も様々な方法で生かし、対応していく。
	20	学校支援ボランティアの活用や地域行事への参加の促進	2.9	・　ボランティア活用については、積極的に呼びかけ、和田川遊び、就学時検診、昔遊び、ミシン実習などで支援をいただいた。今後も学習支援を依頼していく。

3　次学期（年度）に向けての取組

〇　前期と後期の年2回、子供、職員、保護者から学校評価を行ってきた。傾向としても似たような結果が見られるので、保護者の理解・協力も得ながら、具体的な指導を展開していく。
〇　「学力向上は、子供の夢の実現のため」という共通理解の下に、子供同士で認め合える場、成就感をもつ場、自信を深める場等を設定して、自己肯定感や自己有用感を高める授業改善を今後も展開していく。
〇　安全を意識した生活態度の確立は、まず校内での安全な廊下歩行や安全な階段の昇降を徹底することが、学校外での過ごし方につながっていくので、全職員で校内での安全指導の確立に向き合っていく。